

福岡・佐賀紀行

2020.10.28 池田良穂

会誌の新造船紹介の原稿を書いていて、JR 九州高速船の「クイーンビートル」はどうなったのかをインターネットで調べると、「10月15日に博多に到着」というニュースがでていました。日韓航路にジェットフォイルの代替船としてオーストラリアで建造されましたが、新型コロナウィルス禍で日韓航路の人の輸送は止まっており、しばらくは博多で係船されるようですが、なんとしても一目会いたいと思い、博多まで出かけることにしました。最初は飛行機で行きレンタカーを借りて、博多だけでなく佐賀まで足を延ばそうと考えていましたが、車を積んでフェリーで新門司まで行った方が GOTO トラベルを使うと断然安いことがわかりました。福富会員や中濱会員から長距離フェリーの GOTO トラベルの使い方についての情報がニュースとして配信されていますが、これがたいへん参考になりました。

行きは名門大洋フェリーの「フェリーおおさかII」、帰りは阪九フェリーの「せつ」にすることにして、インターネットでフェリー会社のサイトで予約してから、STAYNAVI に登録して「割引クーポン」を発行してもらい、自宅でプリントアウトして乗船時に持つていけば、運賃の 35%引きと、船内及び到着後に使える 3000 円分の地域共通クーポンがもらえ、全部で 50%引きとなるシステムになっています。意外に簡単に GOTO トラベルが使えないので、次回は、さんふらわあで別府に行き、熊本周辺の船に会いに行くことにしています。

さて、大阪南港で「フェリーおおさかII」に乗船しました。就航披露では船内見学をしていましたが、実際の利用はこれが初めて。予約した 1 等シングルはインサイドに並ぶ個室で、1 人旅にはコストパフォーマンスのよい部屋でした。夕食は 1600 円のバイキングでした。取り分けられた料理がラップに包まれて並び、コロナ対策はばっちりでした。しかし、たくさんの料理に目移りして、ついいついたくさんとってしまって反省。ビールとワインで楽しむうちに、船は 20 時前に出港しました。

すっかり日が短くなったものの、朝、6 時半には船の真後ろから太陽が昇り、8 時半の新門司到着まで、行き交う船を眺めながらの瀬戸内海の航海を楽しむことができました。

新門司から博多まで、高速道路を走って約 1 時間で到着。博多港に停泊している「クイーンビートル」の姿をカメラに収めることができました。トリマランの赤い船体が陽光に輝いていました。

その後、唐津まで移動。唐津からは九州郵船の隱岐航路のフェリーがでていますが、そのうちの 1 隻が新造されていました。船名は「ダイヤモンドいき」。13 時半の出港を港口で捉えることができました。夕刻まで少し時間があったので、東松浦半島の付根を横断して星賀に向かいました。ここからは、向島への高速船「向島」がでていますが、初めての訪問だったので、桟橋がよくわからずうろうろしましたが、地元の人に尋ねながらなんとか到着できました。そしてちょうど運よく、入港シーンをとらえることができました。この星賀の近くに、鷹島(長崎県)への橋がかかっていました。それまでは鷹島にはフェリーや高速船がたくさん通っており、15 年ほど前に撮影旅行をしたことを懐かしく思い出しました。今では、

カーフェリーと高速船が1隻ずつ残っているだけでした。

唐津のホテルに入る前に、神集島への高速船「荒神丸」の撮影のために、唐津市内北部の湊に寄り、さらに唐津東港で夕闇迫る中「ダイヤモンドいき」の入港を再び捉えました。

唐津で1泊。翌早朝、唐津城の下の河口で「ニューたかしま」の入港と出港を撮影した後、糸島市の姫島航路市営船が新しくなっていたので会いにでかけました。

佐賀と福岡の離島航路船を見て回ったのは15年ほど前のことですが、この糸島市営船だけでなく、宗像市営船、新宮町営船も新造船に代わっていたので、各港での出入港時間を調べて、それに合わせて車で行ったり来たりして撮影しました。宗像市の神湊での撮影を16時までに終了して、新門司へと向かいました。

帰りの阪九フェリーの「せっつ」は、5月に次いで2回目の乗船でした。夕食は、並んでいる料理を選んでとて、最後に清算するというカフェテリア・スタイルでしたが、長崎の生マグロ、博多のもつ鍋がお勧め料理となっていました。行きと同じで、ついつい取りすぎて、会計は3300円くらいになってしまいました。それでも、GOTOトラベルで頂いた3000円のクーポンが使えたので、差額は300円ほどで、とっても得を感じました。

翌朝、7時10分に神戸の六甲アイランドに到着。早朝の神戸沖は、小型コンテナ船、PCC、内航船が行き交い、まさにビジィーポートでした。

自宅に戻って、次の撮影行の計画を始めました。現在、大学での授業はオンラインですが、内閣府と国交省の2つの病院船検討会の委員を仰せつかっており、月に2回のペースで東京に通っているので、その隙間をぬっての計画となり、かつ晴天の日を選びたいため、最終決定は決行の3日ほど前となりそうです。さて、次はいつ行けるか??

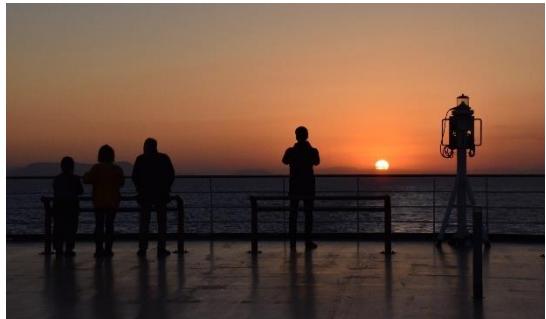
フェリーおおさかII



1等シングルルーム



夕食のバイキングは、一皿ずつラッピングされていました。



翌朝、6時半、船の後方から朝日が上がってきました。



先行する阪九フェリーの「つくし」。少し前を走っていましたが、左に舵を切って針路を新門司へ変えました。



神原汽船の運航するコンテナ船と反航しました。
「天」のファンネルマークに出会うのは久しぶりでした。

新門司港



新門司港には、オーシャン東九フェリーの「フェリーびざん」、阪九フェリーの「やまと」(真ん中)と「つくし」が停泊していました。一番右の「つくし」は着岸直後で、まだ船尾のランプが開いていません。

博多港



ついに「クイーンビートル」に出会うことができました。
日が当たっている面と当たっていない面との赤がこんなに違うとは!!ちょっと驚きでした。

唐津東港



九州郵船の唐津～壱岐航路の新鋭船「ダイヤモンドいき」の入港を港口で撮影しました。下の写真は夕刻に港内に入ってるものの、ちょうど唐津城が船に乗っているように見えます。

星賀



向島汽船の運航する「向島丸」。沖合の向島(むくしま)との間を、1日 4便運航されています。

鷹島



鷹島は 2009 年に架橋されて、多くの旅客船が姿を消しましたが、鷹島汽船のフェリーと高速船が残っていました。橋を渡って鷹島の殿ノ浦港に行くと、飛島、そして長崎・今福港を結ぶ高速船「たかしま」が停泊していました。

唐津・湊



唐津市北部にある湊から、沖合の神集島を結ぶ高速船「荒神丸」にも初めて出会いました。19 総トンで、24 ノットの航海速力で、運航は唐津汽船。建造は、沖新船舶工業です。

唐津港



唐津では、沖合の高島とを結ぶ「ニューたかしま」を撮影しました。上の写真は、始発の高島 7 時発の入港シーン、下は出港を舞鶴橋の上から撮影しました。

糸川市営船



糸川市営の姫島への渡船「ひめしま」が、岐志漁港からでています。35 総トン、20 ノットの高速旅客船で、2016 年の江藤造船の建造です。

宗像市神湊



宗像市営の地島への渡船「ニューじのしま」です。



宗像市営の大島への渡船のうち高速船「しおかぜ」は新しい船に代替されました。

新宮町



新宮町から相島への町営渡船の「しんぐう」も新しい双胴船に代わっていました。詳細はまだ調べていませんが、結構の総トン数はありそうです。

せつ



新門司港発 18時40分の「せつ」に乗船しました。キャビンはデラックスシングルです。



早朝の神戸沖には、船がたくさん行き来していました。



神戸・六甲アイランドのフェリーターミナルには、7時10分に到着。大分航路の「さんふらわあごーるど」が停泊していました。



レストランでの夕食です。もつ鍋は、作りたてのアツアツのものがテーブルまで運ばれてきました。